

平成27年2月

## 長谷川勇二 学位論文審査要旨

主 査 片 岡 英 幸  
副主査 北 野 博 也  
同 池 口 正 英

### 主論文

Treatment outcomes of head and neck squamous cell carcinoma in the elderly: a retrospective study over 7 years (2003–2009)

(高齢者の頭頸部扁平上皮癌患者に対する治療成績:2003年から2009年の7年間にわたる後ろ向き研究)

(著者:長谷川勇二、福原隆宏、藤原和典、竹内英二、北野博也)

平成27年 Yonago Acta medica 掲載予定

### 参考論文

1. Subglottic laryngeal closure: a unique modified method of laryngotracheal separation to prevent aspiration

(声門下喉頭閉鎖:喉頭気管分離に代表される誤嚥防止術の変法)

(著者:三宅成智、河本勝之、藤原和典、長谷川勇二、北野博也)

平成25年 ANNALS of Otolaryngology, Rhinology & Laryngology 122巻 427頁～434頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、2003年から2009年の7年間にわたる高齢者の頭頸部扁平上皮癌患者の治療結果について前期高齢者群と後期高齢者群を比較検討したものである。その結果、暦年齢に関わらず手術や放射線治療を主体とした根治的治療を行うことができたこと、根治的治療を行った群において後期高齢者では5年無再発生存率や5年疾患特異的生存率が低かったこと、また、前期高齢者群と後期高齢者群ともに化学療法を併用は再発率の抑制に繋がっておらず、化学療法の併用は必須ではないことを明らかにした。本論文の内容は、明確な治療指針が存在しない高齢者の頭頸部扁平上皮癌患者の治療の実態を明らかにしたものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。